

# 赤軍からの宣言（リッダ闘争の声明 一九七二年五月三〇日）

## 赤軍

### 赤軍

一、われわれ赤軍は、PFLP（パレスチナ解放人民戦線）の同志とともに、共通の敵に対して成功裏に行われた攻撃的闘争のニュースを享受できて幸福である。われわれはこの作戦を誇りとする完全な権利を持つ。

一、敵は、全世界にいつわりの情報をまき散らし、わが革命的攻撃の衝撃をけんめいに低めようと努めている。彼らがいかに、△ヒューマニズム▽の名に於いて自己を

正当化しようとしても、われわれは彼らが一九五六年一〇月二〇日、パレスチナのカフル・カシム村で何をしたかを思い出すだけである。彼らが△ヒューマニズム▽について叫べば叫ぶほどわれわれ戦う人民は自らの長い虐げられた歴史を、ますます鮮明に思い出す。

一、虐げられた者の語ることは、銃以外になく、虐げられた者が心に抱くヒューマニズムは、武装闘争以外にない。ベトナム、パレスチナの同志たちが、帝国主義者の世界分割によって作られた国境を突き破って日夜任務

を果たしているのと同じ方法でわれわれも戦い続け、闘争を強化する。

一、真の団結は、先進国ならびに第三世界の人民の共同武装闘争を通じて、また共通の敵を打倒する過程を通じてのみ達成される。

一、三人のゲリラ戦士は、具体的かつ効果的な実行と、犠牲の上に立つ、われわれの革命に永遠の火をともしために、喜々として攻撃におもむいた。われわれもやる。全世界にわたる彼らと同質の闘争を拡大しよう。

一、パレスチナの虐げられた友よ、この闘争は、日本帝国主義者の黒い血にまみれた手で育った日本人民が武器を置くことなくあなた方に手をさしのべ、抱擁し、歩き続けていることを証明した。それをわれわれは誇りに思う。

一、われわれは宣言する。「われわれはパレスチナの友人ならびにPFLPの同志と手を取り、世界の全ての敵を

打倒するまで前進する用意がある」ことを。

一、勝利の日まで、日本に住む朝鮮、中国人民に、さらに日本の中の第三世界を強制された沖縄人民と共通の敵の打倒において、われわれと共にある全世界の友よ、われわれは互いに会うことはないけれども灯をともしプロレタリア国際主義があらゆる戦線ならびに戦場を統一し、ひとつの敵をたたきつぶすことを、確信をもって告げる。世界革命までもに歩もう。

一、日本の同志よ、友よ。愛する三人の同志の闘争を前進させ、既成の国境を打ち砕き虐げられた者の心はひとつであることを胸にしつつ、より大胆に進もう。

一、三人の同志の最後の言葉は次のようであった。「われわれは絶対に失敗しない。歴史の中の無名戦士としてどこでも死ぬ用意がある。いざ友よ、家族よ、葬式をせすにお祝いをせよ！」